智い級が政黨ぶつて地方でを終つてしまつたので全

のであっ

めてゐる小虫のやうな無されたが

を地方民とその自治體に するが故にその横縁振り 彼等は背景に大政黨 有

喰ひ入り運用を誤まらし

新聞は一部だけ差押處分を 気を送破する由である當時 では 禁間紙法違反と 一書

中町方部は全部配

で大衆を無視す

に到

紙屑籠

鬱頭としり、走狗になつ

補した際政 ※發表して※

べく忠正な

べきを立候

衆。意志

議督し反映す

に参與する彼等は日常大 に送られ政治中極の機関 大衆から代表として図

ては斷々平として彼等低 最政策を排撃しなければ

な 。 ぬ 。

代表上級の意動な情でで

きであり

變言:

政権事奪を出

動いて? の目途と

べもなり

は政ニを國家最高の存在 大衆もあり得ない、彼等

値するもいであ 考へておることは



の存在すらも否定したく

政黨の黨員に多いやうだ るこの帰低級者流は長

で盛館を豫想されてゐる 動小學校で開催するが多点 たる八百 名に達しる 日午後一時から たので何と祝賀會

セツ文を掲げて

逐に平著の だした磐城新聞 取調を受

関」は逐一司直の収調べを受ける事 東日にモー らねて置き乍ら更に反省セず却つて注告した吾の 配育の公園でする新聞紙 U のニックネー にヒワイ極まし文句。つ 豐間港 ムを與へた「磐城新 0) なつた

奴法を任の取調べを受けた掲述の程 萬圓変附される事 受け司法観室に於て伊藤司 配の一文は新聞紙伝第四十 どなつた為意々近日 九日午後、時中署に召喚をに決定したので之が補助に此。編輯上任坂本浩氏は十 クー網羅棒業で着手する。 平野經過能以平檢部局 ! 他切ヒワイの一文を草した 長の後の答の調査を進める **本毗は削添の筆を上つたが** ○を以て社會風飲の爲のに 就き森中詩中 ケー經續事業で着手する。 豊間をでは十九萬園。役じ て流港製港の四年度から四 総二費十九萬圓で あつたが 中に工

政策の具 か. とか.

供せんしする

地方自信中隔

小犬 ぎもに到ってに哀じ

れむべく消度しがたき

等である。

一條に低觸するもので平署事に着手すると 不都合です……と

郷中の讀者はアノ記録を見て志賀豊間村長並に遠藤豐間 豐間村長等

豊間流達して数細 らだと云ふのなが感じられ が碱じられる結果か 来きが規一を破つでして居たものが小冬人數網は年額三十萬 漁する爲め年 ある 石城部好間村大字上好問

刑を執行さる

好間の矢部利雄

4

女験の豫備以職で中署のた 記話氏合格 執行された心縣警部考試 々木、佐藤各鄰長 橋矢田、南地(高等)。 考試心格 去る十三 れ當時北海道云見澤町居任

不良の

漁業組合長は十九日出縣し 本數網漁業で陳情したが内 玄廟の戸を明けょうと表 先にパケツやたらいや庭 田門分数場の小便さんが した思戯扱りには驚いて てあつたので直ちに一署 はうきの類が出し積まり へ廻つた態驚くべー玄陽 九日 平署貝も撤岸

學校前へバケツ の朝平第二小學校 帯たらい、の山 一年を言渡された んで同家納屋に放火して遂 之助方に至り前の守札を買 る十九山平區裁判所で微 ・全焼さした放火事件は去 れを拒絶した處それをうら へと強要したので緑川は 口城郡田八村字日人綠川鉄 橋喜七、四四)は先月十万日

石城販資利用

D

窮。

Mo

學

秋で観

東以府豐多摩邸代々幡町字 帽ヶ谷生れ當時住所不定高 守札は不用だ 拒絕された家へ放火 田人村に出没した男 年を言渡さる 風は今夕止み

なま温い風が吹いて俄 吹いて又既冬に戻つたか 候も昨日から冷たい風が と小名箔側候所で語つて もなざいて暖たかくなる も今晩迄で明日からは風 と思はれたが然し此の風 當分天氣續く いて二三日來の天 小名濱側候所談

八分 時クタマ 部野上村宇 つて調 植田器員も驚く 人が

町では点巻も金々質が

既報

天部利雄(二二) 二徴兵を避

断を執行する筈

住宅低利資金 三年

外る二十五日見童の健康診

Z

۲

所で欠席のき、罰金五十周

たがその後前記

て石城郡關係の分左の如し 度の住宅組合低利資金に就

灰礦. 川部村秋 菜方に雇れ中一品高倉直記(二八)は石 翌世 上生儿常時住所、定前科 に衣類現分數点を窃収逃去 し其の後奏城縣系賀部官也 潜伏してわたいを確 頃主人の留守を奇り 戸 送って 移線により中署で逮捕撿事 上好問に潜伏してゐたのな 直裁判所

刑の執行を言渡

倉町第二組合

▲不町住宅組合

ぬ四ツ

たが同人等兄弟三人は揃べ 出署。が探知十九二逮捕し も揃つて窃盗前科を有して 學校荒 1)

『裁縫女學校は四月から設

町早川ヨシ設立の私立大

大倉裁縫認可 四ッ

忍び込って二百二十圓記入 去る十六日内郷村小學校に 助(三八)と判明した 住所《定副科四犯增子新之 犯人は其の後搜索中であつ だ右犯人は安積が河内生れ たが十九日棚倉署で逮捕 郵便通帳・窃取逃走した 棚戸署で逮捕 十八日付知事から認可でる 商開校を私立學校合により 植田町會

で署員も驚いてゐる

川瀬炭礦の ◇……專業擴張

灰礦の礦區であつた赤井村 亦井村川州炭礦では元小川 となった。 以収して事業を擴張する事 川瀬隣礦區十五萬餘坪を

九日午前十時から舉行した 私立商業第一回卒業式は十 名 四商卒業式 卒業者は青木幹夫外二十 四ッ倉

> よってさまぐの劇的事件が随 色々な役にフンする人達の群に

人生は芝居だ、そんな暗い心で 所に美しくきたなく起ってゐる

りに付訂正す 福創」の誤正誤 十九日夕刊一面の ソウミ演説會を去った

神影

四年度隊算町會は廿三日午 萬三千圓を附藏決定すると 前十時から同 役場に開催四

植田町の

蒸入さなるのである。 富夜のだんだら染火事装束をし 様にも乞食にもマン数する、 を投けると大石主殺があだうる たこさもうなづかれる。 人生に舞台面だと哲學者の言つ して亦み。ぼらしいすがたの旅 **遠こも乞食にもフン裝する、そめの人達は赤穂浪士ごこるか暇** 流れ去つた。 フト私の心をかすめて暗い影が く赤穂浪士の一群をみたが。 ってねるき路次をぞろんして行 た。中がて鈴木代議士さ話し合 たままの役者さパツタリこわつ 楽樂館の樂蘭裏で鈴木代議士が 無産政職の演説會がわった。

ツク生) ▲あんな顔をし 張つたネこれでも姿にヤ 心だヨ子供に一錢くれ ノ納豆賣屋さんは全く戯 てよくも妾のたもとを引 ゐるのを見たヨ(ブルド んだもの(キノ字) フエーで女給とふざけて あるんだョ(丁子堂)●ア ▲先日又々中學生が某カ

肇 洗 よ前に

揮こうしてねるので暗いろう下

春の。お 調。

◎又々珍柄澤山入荷致しました。 平町三丁目

つた。

はんこしたが彼の姿はなか 衛の娘を露のため大高を始 んだ。空頭虎松は人高忠兵 ち振って高の一隊が駈け人 このろう

Ê

組の鑑を打

電話の三九音

近藤を訪れたか組の虎松は或る日新撰組の本陣へ單身

安否を知らんと

し彼は大高の死を知り

大高の娘のたの彼女の父の

土日學生テー

料金普通

は途に船御門の間を作さ

せしのたら 池田騒動 徐波

その行為に對して自責を歐 會台を自白したのであるが

した。近藤は彼の胸中を寒

し私かに短刀を與へて自己

し、兵火は飛んで六角。牢

家が新り込んだ。動王し 三級辿田屋窓共第方へ突 隊長近從馬至先頭 元年六月五日, 妻三郎 品 その 敏 新選編 期してお露を慰めた 親母を對した。彼は

聞いて驚 お露は

本場特製諸銘茶大賣用し

學

Bij

時計 メガネ

御用命は是非

屋外は無撰組の覆面の隊士 にせられた は最級の鉄塚によって江 松は一露い紹介 龍馬ご相知つたo って乾分を返めて養ひ來 洪戰

學道部

校省省

御用

素人が刷毛一本で

J. Ja

完正に手がるに出來る

古壁が新り

なる高級水性

代を徹して奮戦した。新聞

よつて取り図れしるた -(第一篇終)-(H)

志士古高俊太郎

激しい控

この牢獄、投獄されてあた

年合へ引揚げる

組は召捕二十餘年を曳

問に堪えず池田屋に志士の

市川左 施 次 概 · 智川清 櫻井京子

一天下品でし 會我廼家五九郎 主演 邦駒地の や婆い風 珍品 上活提供

一張る近際勇は飛報る受け

その六角の鏡に落ちる頃こ

料西 理洋

り譚は 振りであつた年公の世渡 に弱く、娑婆の風に五、時に温く…時 合うぎオの 小宴會

互藤馬坂本龍馬加組 虎公 阪東妻二 人三役主席 在庫品の

整理を機に

一、附屬

式些

ます

則

何卒御用命下さ

四二八番

宴覧席の Sylpin 月見町工場。電七二三 忍町(縣社通り 評美味で 丁目・電ニールル 0 御用命

÷ 本科生 男女百名

一。曹通科第一學年生 ◎高等小學校卒業生ハ無試驗ニラ願書到着順 、募集期限 中學校初年級卜 尋常小學校准教員並二師範學校入學準備 ニ人學ヲ許リス 州音進星響 李明六間門 同一程度 三月二十一日限 佑賢學舍 百五十名 9

理 店 二丁目 町白銀 長安 善險 五會 郎社

貴金属メガネ 会談 眼鏡を一けっや 老も若きも

けに気分の夾や

かさ

水 時 計 店

◎御贈答品特に御相談に

應じます

T

野屋写呼七二六

御茶司

平器前が道通り

本院醫事法制囑託 法學士

本院主事 賀

댔

波

一、教 療 所 へ 教 気 相 談 所 会 は 試 験 所

(共濟病院內)

(共濟病院內)

岡自動車部 電話五七番

入院自炊ノ便アリ 看護婦見習募集電話六四一番 城 上入済 一次 完 氣分よへ乘心は 自動車御利用ハ

食切貸車級高食 専問の車 昭和タクシーへ 御利用を願ひます 路

印刷物

御注文はよ **小社印刷部に御用命を願ます** 東北日日教聞日東公 主任 (電話七五七番) 逑

内科小兒科

産婦人科部長 醫學博士 川産婦人科部長 醫學 士 五工産婦人科 女子泌尿科、レン 主光顧 線科 (院長毎日診療)